

俳句 大津俳句会

天日の誘ひだしたる山法師

井芹眞一郎

春風のうしろから押す滑り台

秋山 恵子

校庭に残る思ひ出楠若葉

市原 初女

家を恋ふ老人施設落煮染

江藤 みち

吹く風に元気を貰ふ鯉幟

大塚喜久子

雨上る緑まばゆき雑木山

坂本 セキ

予期せずを受けとる手紙あたたかし

佐賀 久子

殉教の島を明るく麦の秋

松尾 昭雅

けふ生きし証しのビール乾しにけり

渡邊佳代子

牡丹の眩しき蕊しべに金の風

岡崎 浩子

やはらかく行き渡る風麦の秋

森山美穂子

俳句 つのはな句会

梅雨前線背負うて 神話の町歩く

星永 丈夫

花冷えに未知なるコロナ浮遊する

木庭 杏子

誕生日は花盗人になってみる

上杉 波

あつけなく逝く人のあり春夕焼

矢嶋 道子

閉ざされたブルーの国を雲雀飛ぶ

水野 春子

朱あかい月さびしい五月の街照らす

梅木トキエ

蓬餅よもぎあの日の君に逢ひたくて

塚本 洋子

国難と言うには淡し花山葵わさび

榮田しのぶ

蝕むしばまれゆく都市よ人等らよ花筏はないかだ
志賀 孝子

タンポポは好奇心のかたまりです

田上 公代

短歌 大津短歌会

春疾風はるはやてさくら散らして過ぎ去りぬ川辺の岩に花卉はなを吹きつけ

鞍 岳志

青空に桜はなぜかよく似合う

しみじみ見れば悲しみの沸く

坂本 杲子

禍は終息知らぬ日々あり

明の明星に今日を託せし

管野 静

駐車まで自動でこなす車とぞ

嗚呼人間はまた楽になる

渡邊佐代子

世の中はコロナウイルスで騒々し

手洗いうがいで身を守る

豊岡ミツル

暫し覚めてかすかな雨滴聞く時も

確かに赤芽伸ばす芍薬

吉永 恵子

ウイルスの嵐が猛威ふるう中

桜吹雪の遠ざかり行く

小平 善行